

私の浜松への旅行で体験したちよつといい話は、浜松まつりの凧揚げです。

私が小学生の時、両親と妹そして友達と家族と凧揚げを見に浜松に旅行に来ました。大人たちは迫力と熱気に盛り上がり、あつちだこつちだと大騒ぎ。しかし、私たちは次第に興味が移り、辺りを探検し始めました。

探検に夢中になった頃、バサーっという音とともに大きな凧が下りてきて、同時に法被を着たお兄さんたちが走ってきました。空に浮かんでいる時は小さく見えた凧が、下りてくるとはるかに大きいことに驚き、ただぼんやり眺めていました。しばらくすると、凧と法被の群れの中から妹が出てきました。そして手には凧の麻紐を持っていました。凧が当たってしまった妹に、『ごめんね』と言って凧の麻紐をくれたそうです。

本当は邪魔なところにいた私たちのほうがいけないのに、その粹な気遣いに私たち家族は心奪われました。今では、毎春になると麻紐の話題が出るくらい、家族の忘れられない思い出になりました。